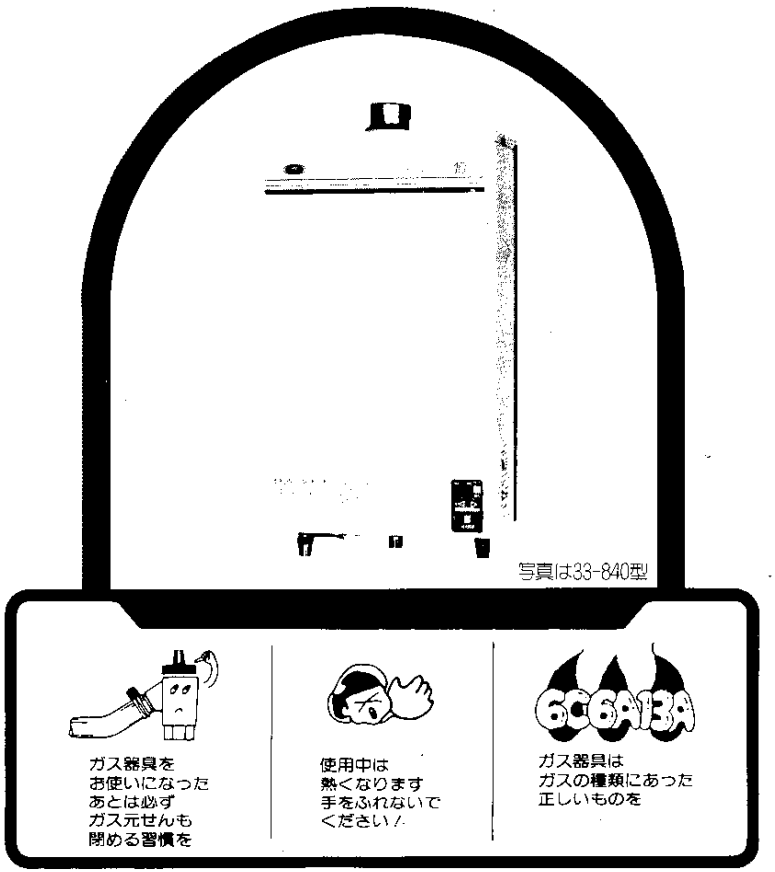
大阪ガス

ガス瞬間湯沸器
取扱説明書　33-840型 33-820型

保証書付

法定型式S10S12型
法定型式S8S12型



●ご使用前に必ずこの説明書をよくお読みのうえ、正しくお使いください。
なお、ご不明な点があればお買い求めの販売店にお問い合わせください。

ごあいさつ

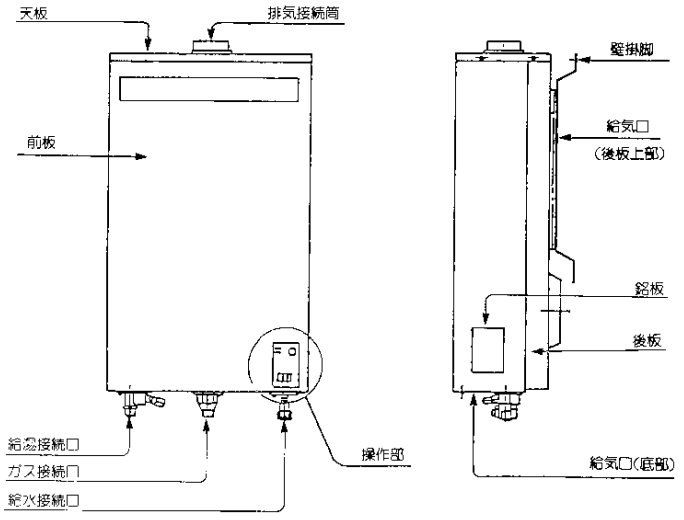
このたびは、大阪ガスのガス湯沸器をお求めいただきありがとうございました。
別添の保証書とともに、この「取扱説明書」を大切に保存してください。

もくじ

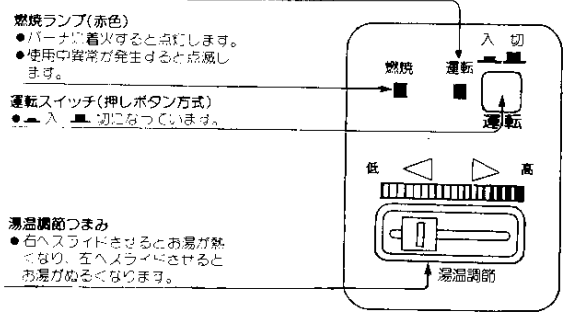
●各部の名称…… 2
●特に注意していただきたいこと…… 3
●湯沸器の設置…… 6
●使用方法(使用時のご注意)…… 6
●冬期の凍結による破損予防について…… 9
●日常の点検・手入れ…… 11
●故障・異常の見分け方と処置方法…… 12
●アフターサービスのお申し込み…… 16
●特　長…… 17
●寸法図…… 18
●仕様一覧表…… 19
●メ　モ…… 21
●本製品と快適なくらしのために…… 22

各部の名称

湯沸器本体



操作部

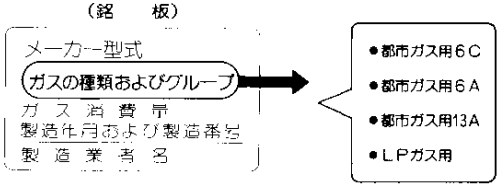


特に注意していただきたいこと

安全に正しくお使いいただくために、この項は必ずお読みください。

使用ガスについてのご注意

●湯沸器(銘板)に表示してあるガスの種類およびガスグループ以外では使用しないでください。
銘板は湯沸器右側面下にはっています。
ガスの種類には都市ガスとＬＰガスとがあり、都市ガスにはガスグループの区分があります。



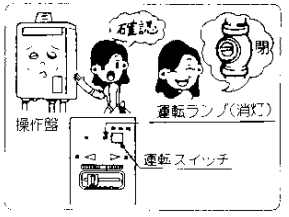
使用電源についてのご注意

●電源の電圧と周波数を確かめてください。
この器具はＡＣ100Ｖ、50ヘルツ用です。お宅の電源の電圧と周波数が一致しているか確かめてください。

使用上のご注意

1.ガス漏れ予防

❶お出かけや、おやすみになるときは、必ずガス元せんを閉じ、運転スイッチを「切」にしてください。
❷使用中にガスのにおいや、不快なにおいがしないかときどき確かめてください。

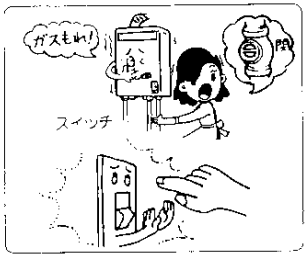


特に注意していただきたいこと②

2.ガス事故防止

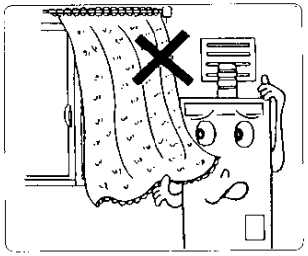
❶ガス漏れに気づいたときは、ただちに使用を中止して、ガス元せんを閉じ、大阪ガスサービスショップ、または大阪ガス支社へご連絡ください。
〔絶対に使用しないでください。〕

❷ガスが漏れたときは絶対に火をつけたり、他の電気器具にふれたり（スイッチの「入」「切」や電源プラグの抜き差しなど）しないでください。



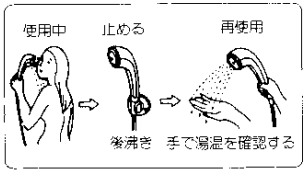
3.火災予防

●湯沸器の上や周囲には、燃えやすいものを置かないでください。特に排気筒は、洗たく物やカーテンなどでおおわないでください。



4．やけどのご注意

●シャワーをご使用後、すぐに再度お使いになるときは、いきなり体や頭にかけず、手で湯温を確認してからお使いください。湯沸器の後沸きによって一瞬熱いお湯がでることがありますのでご注意ください。



特に注意していただきたいこと③

5.飲料用にお使いのとき

●給湯配管内に長時間たまった水は飲料用、または調理用に用いないでください。

6.用途について

●給湯およびシャワー以外の用途には、使用しないでください。

7.市販の補助具について

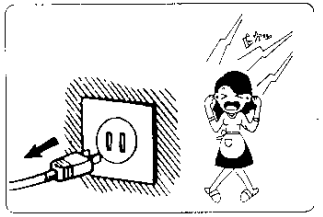
●この湯沸器用の付属部品および別売部品以外は使用しないでください。

8.異常時の処置

●ご使用中にふだんと違った状態になったときや、不都合が生じたときは、そのままお使いにならず、ただちに使用を中止（運転スイッチを「切」にし、ガス元せんを閉じる）して十分な点検をしてください。（故障・異常の見分け方と処置方法については 12ページをお読みください。）

落雷のおそれのある時

●雷による一時的な過電流で電子部品を損傷することがありますので、雷が発生したときは、すみやかに電源プラグをコンセントから抜いてください。



凍結についてのご注意

●厳寒期には湯沸器内の水が凍結し、破裂事故が起こることがありますので、庭のたまり水などが凍るおそれのある日は凍結を予防する処置を必ず行なってください。（凍結と処置については 9～11ページ、冬期の凍結による破損予防についての項を参照してください。）

日常の点検・手入れ

❶日常の点検・手入れをしてください。（詳しくは11～12ページをご覧ください。）

❷故障または破損したと思われるものは使用しないでください。
不完全な修理は危険です。大阪ガスサービスショップ、または大阪ガス支社にご相談ください。

湯沸器の設置

❶湯沸器の設置、移動および付帯工事は、大阪ガスサービスショップ、または大阪ガス支社に依頼し安全な位置に正しく設置してご使用ください。
（詳しくは工事説明書を参照してください。）

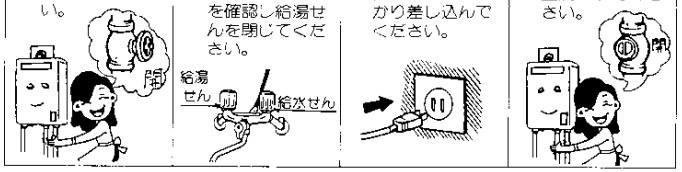
❷この湯沸器は、必ず排気筒を設置して排気ガスを屋外に排出してください。

使用方法

使用前の準備と確認

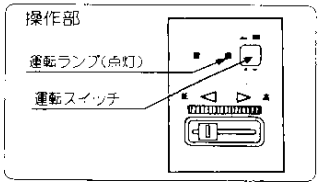
●湯沸器の操作をする前に次のことを行なってください。

手順 1	手順 2	手順 3	手順 4
●給水元せんを全開にしてください。	●給湯せんを開いて水が出ることを確認し給湯せんを閉じてください。	●電源プラグをコンセントにしっかり差し込んでください。	●ガスの元せんを全開にしてください。



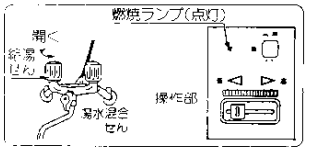
点火・給湯（お湯の出し方）

❶操作部の運転スイッチを押して「入」にしてください。運転ランプ（緑）が点灯します。



使用方法②

❷給湯せんを開くと、自動的にバーナに着火し、燃焼ランプ（赤）が点灯しお湯が出ます。



《ご注意》

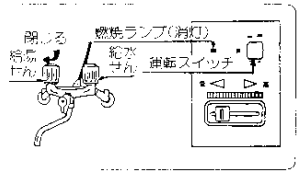
❶使いはじめは、給湯配管内にたまった水が流れるまで、お湯は出ません。約30秒待ってもお湯が出ないときは給湯せんをいったん閉じ、ふたたび、給湯せんを開いてください。

❷給湯せんを十分に開かないと点火しなかったり途中で火が消えることがあります。

❸この湯沸器は、1kg/cm²以上の水圧が必要です。ご使用中でも水圧が下がると、消火しますが故障ではありません。（給水元せんは全開にしてお使いください。）

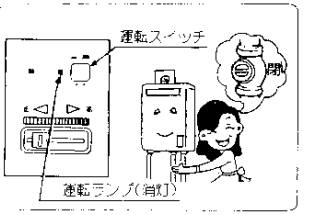
消火・給湯停止（お湯の止め方）

❶給湯せんを閉じると、自動的に消火し、燃焼ランプ（赤）が消灯します。



❷操作部の運転スイッチを押して「切」にしてください。運転ランプ（緑）が消灯します。

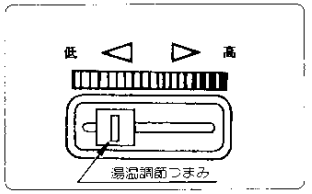
❸おやすみ、外出の時または長時間使用しないときは、ガス元せんを「閉」にしてください。



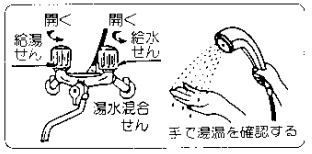
使用方法③

湯温調節

❶操作部の湯温調節つまみを操作して、お好みの湯温にセットしてお使いください。



❷湯温調節つまみを高温側にセットして湯水混合せんで水と混ぜて適温にしても使えます。特に33-820は、湯沸器の能力を十分に使用するためシャワーにお使いのときなどにはこの方法をお使いください。



《ご注意》

❶同時給湯について
2箇所同時に給湯使用したとき、湯温が低くなることがあります。
シャワー使用中は、同時使用はさけてください。

❷湯量について
33-840には季節(水温)による湯温の変動を小さくするために水温によって自動的に湯量を変える装置が組み込まれています。そのため湯量は夏場(水温25℃)約9ℓ/分～冬場(水温5℃)約5.5ℓ/分になります。
33-820は約5ℓ/分の湯量に調整されています。

❸夏期や水圧が下がった時など能力が十分出ないことがあります。そのような時には、湯温調節つまみを高温側にセットして湯水混合せんで水と混ぜて適温にしてお使いください。

停電時の処置

❶使用中万一停電した場合は、給湯せんを閉じて、運転スイッチを「切」にしてください。

❷再通電したときは、「使用方法」にしたがって操作してください。

使用方法④

断水時の処置

❶断水のときは、給湯せんを閉じて操作部の運転スイッチを「切」にしてください。

❷再使用するときは、必ず給湯せんから水のでるのを確かめてから「使用方法」にしたがって操作してください。

冬期の凍結による破損予防について

冬期には、寒冷地以外でも急な寒波のため湯沸器内の水が凍結し、湯沸器を破損することがあります。湯沸器が凍結し、破損すると高額な修理費用がかかることがありますので、次のような処置をして湯沸器の凍結による破損を予防してください。

湯沸器内の水を抜く方法

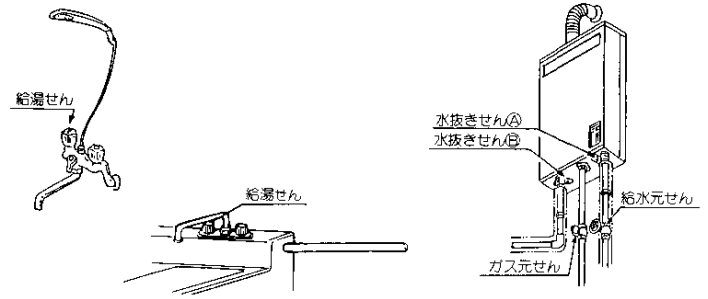
〈入居前や長期不在の場合または外気温が－5℃以下になるような場合〉

●この方法では、給水・給湯配管部分の凍結予防は出来ませんが、凍結から湯沸器を守るには、最も良い方法です。

〈水抜きの手順〉

❶運転スイッチを「切」にし、電源プラグをコンセントから抜いてください。
❷ガス元せんを閉じてください。
❸給水元せんを閉じてください。
❹すべての給湯せんを開いてください。
❺水抜きせんⒶ、水抜きせんⒷを左に回してはずしてください。

冬期の凍結による破損予防について②



《ご注意》

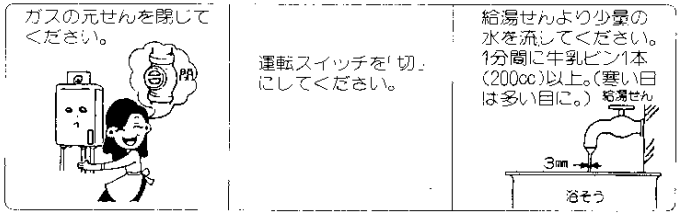
❶給湯せんは、次にお使いのときまで開いたままにし、水抜きせんⒶ及び水抜きせんⒷは、はずしたままにしておいてください。

❷再度、使用されるときは、水抜きせんⒶ及び水抜きせんⒷをしめ、給水元せんを開いて、給湯せんから水が流れるのを確認してください。このとき水抜きせんⒶ水抜きせんⒷから水もれがないかを確認してください。

❸電源プラグをコンセントにしっかり差し込み「使用方法」にしたがって操作してください。

給湯せんから水を出し放しにする方法

●湯沸器本体だけでなく、給水管、給湯管の凍結予防にもなります。



《ご注意》

●給湯せんからの流量が不安定なことがありますので、念のため30分ぐらい後に、もう一度流量を確認してください。

冬期の凍結による破損予防について③

凍結したときには

❶凍結したときには、湯沸器に異常が生じる場合があります。凍結がとけたあと、水もれや、作動に異常がないか、確認してご使用ください。

❷湯沸器や配管が破損し、高額の修理費用がかかる場合があります。
(このときの修理費用は有料です。)

日常の点検・手入れ

湯沸器を安全にいつまでもご使用いただくために日常の点検、手入れを必ず行なってください。

点検・手入れの際のご注意

❶点検・手入れの際には必ずガスの元せんを閉じ(電源プラグを抜き)湯沸器が十分冷えてから行なってください。

❷前板などは、はずさないでください。

点検

❶湯沸器の上や周囲に燃えやすいものを置いていませんか?

❷ガス配管部からガス漏れしていませんか?

❸給水、給湯配管から水漏れはありませんか?

❹排気筒出口や給気口をふさいでいませんか?
(給気口は2ページ「各部の名称」を参照してください。)

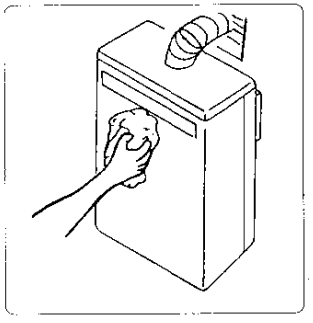
❺湯沸器のご使用に支障がなくても、2～3年に1回ぐらいバーナや各部の作動が"正常"かどうか定期的に点検をするのが、安全で長期間使用いただくための"ひけつ"です。点検のご依頼は、大阪ガスサービスショップ、または大阪ガス支社へご連絡ください。

日常の点検・手入れ②

お手入れ

●汚れは布、またはスポンジに台所用洗剤（中性洗剤）をつけてふきとってください。（洗剤が残らないようご注意ください。）

《ご注意》
●金属たわし・みがき粉・シンナーやベンジンなどは使用しないでください。（湯沸器本体の色が変色したり、印刷表示物の文字が消えます。）



故障・異常の見分け方と処置方法

ご使用中にふだんと違った状態になったときや、不都合が生じたときは、そのままお使いにならず、ただちにご使用を中止して十分な点検をお願いします。

次のような場合は、故障ではありません

❶最低作動水量について

この湯沸器は、湯沸器内の通水量が最低作動水量（2.9ℓ/分）以下になったときは、点火しませんので、故障とお間違いのないようにご注意ください。

❷同時給湯について

2箇所同時にお湯を使用するときに、給湯配管の方法、給湯せんの開きぐあいによって、それぞれの給湯せんのお湯の量が異なることがあります。特に湯沸器から遠い場所、高い位置の給湯せんでは、お湯の出ない場合もあります。また、シャワーをご使用中に、他の給湯せんを使用しますと湯温や湯量が変動しますので、同時使用をさけてください。

❸お湯の白濁について

出湯直後にお湯が白くにごって見え、しばらくすると透明になることがありますが、これは水中に溶けこんでいた空気が熱せられ大気圧まで急速に減圧されることで細かい気泡となって出てくる現象です。ビール・サイダー等の泡と似た現象であり汚濁とは違い全く無害のものです。

故障・異常の見分け方と処置予防②

故障または異常の場合の処置方法

現象 ＼ 原因		着火しにくい 給湯せんを開いても着火しない	使用中に消火した・消火しやすい	高温の湯がでない	使用中湯温が極端に変動する	異常な音をたてて燃焼する	過圧逃し弁から常時水がでる	燃焼ランプが点滅する	処置方法	参照ページ
ガス元せんの開きが不十分		○		○				○	ガス元せんを全開にする	6
配管内に空気が残っている		○						○	点火操作を繰り返す	6
給水元せんの開きが不十分		○	○						給水元せんを全開にする	6
水圧が適切でない	低い	○	○		○				点検・修理を依頼する	—
	高い						○			—
水フィルターにごみがつまっている		○	○		○				点検・修理を依頼する	—
給湯せんの開きが不十分		○	○		○				給湯せんを十分に開く	7
給湯せんの開きすぎ				○					給湯せんを絞る	7
電源プラグの差し込み忘れ		○							電源プラグを差し込む	6
運転スイッチの入れ忘れ		○							運転スイッチを「入」にする	6
点火装置の故障		○							点検・修理を依頼する	—
水ガバナの故障		○		○	○				点検・修理を依頼する	—
安全装置が作動		○	○						点検・修理を依頼する	—
ノズルへの逆火						○			点検・修理を依頼する	—

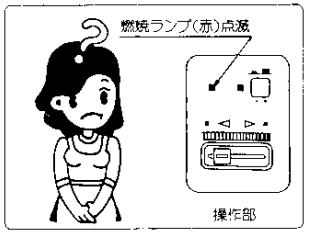
処置や原因がわからないときは、ただちに大阪ガスサービスショップまたは大阪ガス支社にご相談ください。

安全装置が作動したときの処置方法

1.安全装置作動時の報知（燃焼ランプの点滅）と処置について

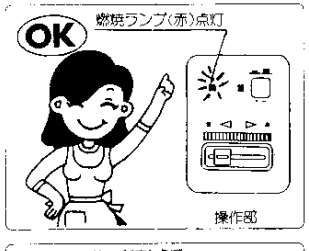
使用中に立消え安全装置・過熱防止安全装置・残火安全装置が作動しますと、自動的にガスを閉じ操作部の燃焼ランプ(赤)が点滅し安全装置が作動したことを、お知らせします。

この時は、**運転スイッチをいったん「切」にし給湯せんを閉じてください。**約1分間様子を見て**ふたたび運転スイッチを「入」にし、給湯せんを開いたとき燃焼ランプの点滅が止まれば正常です。**その時**燃焼ランプがふたたび点滅したときは、大阪ガスサービスショップ、または大阪ガス支社にご連絡ください。**



給湯せんを閉じて、操作部の運転スイッチを「切」にする。

1分間待ってから運転スイッチを「入」にし、給湯せんを開く。



❶立消え安全装置

万一使用中にバーナの炎が消えてもガスがでないように安全装置が働いて自動的にガスが止まります。

❷過熱防止装置

使用中湯沸器内の温度が異常に高くなったときは、安全装置が働いて自動的にガスが止まります。

❸残火安全装置

熱交換器が異常な温度上昇をしたときは安全装置が働いて自動的にガスが止まります。

2.過昇温防止装置について

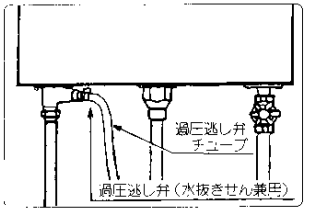
この安全装置が作動しても故障ではありません。使用の際に、湯量を極端に絞ったり、水圧が低いときに湯温が過度に上昇することがあるため、**過昇温防止装置を設けてあります。**この装置が作動しますと、湯温が極端に変動しますが、このままではシャワーやお台所での使用には不適当です。**給湯せんを全開にするか、湯温調節つまみで能力を小さくして湯温変動のない状態にしてお使いください。**

3.過圧逃し弁について

湯沸器の使用停止直後に熱交換器の余熱により、熱交換器内の圧力が高くなり**過圧逃し弁が作動して水がポタポタ出ることがありますが、湯沸器の故障ではありません。**この様な場合には床面をぬらしますので、過圧逃し弁の排水処理が必要です。過圧逃し弁チューブが確実に取付いていることと、支障のないところへ排水処理されていることを確認してください。

《ご注意》

- 残火安全装置が作動する際には、湯沸器の損傷を防ぐため過圧逃し弁が動作し高温の蒸気が噴出しますので、ご注意ください。



長期間使用しない場合

長期間使用しない場合は、運転スイッチを「切」にし電源プラグをはずし、ガス元せん、給水元せんを閉じ必ず湯沸器内の水を抜いてください。水抜き方法は9ページを参照してください。

アフターサービス

サービスのお申し込み

❶12～15ページの「故障・異常の見分け方と処置方法」の項を見てもう一度ご確認ください。

❷確認のうえ、それでも不具合な場合、あるいはご不明な場合はご自分で修理なさらないでお買い求めの販売店、またはもよりの大阪ガスサービスショップ、もしくは大阪ガス支社にご連絡ください。なお、ご連絡いただくときは、次のことをお知らせください。

① 品　番……湯沸器の左側面に貼付してあります。

（例1）

(4)33-840(U)
大阪ガス株式会社　07

（例2）

(4)33-820(U)
大阪ガス株式会社　01

② 現　象……　できるだけ詳しく

③ 道　順……　できるだけ詳しく

転居される場合

●ガスの種類には、都市ガスとLPガスとがあり都市ガスにはガスグループの区分があります。ガスの種類、ガスグループの区分が異なる地域へ転居される場合には、部品の交換や調整が必要となりますので、転居先のガスの種類、ガスグループの区分を確認の上、大阪ガスサービスショップ、または大阪ガス支社にご相談ください。この場合、調整・改造に要する費用は保証期間内でも有料となります。

保証について

●この湯沸器には保証書がついています。

保証書に記載のように、湯沸器の故障について修理いたします。詳しくは保証書をごらんください。

保証書を紛失されますと、無料修理期間であっても修理費をいただくことがありますので、この取扱説明書とともに大切に保管してください。

補修用性能部品の最低保有期間について

❶無料修理期間経過後の修理については、大阪ガスサービスショップ、または大阪ガス支社にご相談ください。修理によって性能が維持できる場合は有料修理します。

❷補修用性能部品の最低保有期間は製造打切後7年です。

※性能部品とは、その製品の機能を維持するために必要な部品です。

特　長

1 使用目的に応じてワンタッチで能力を無段階に切替えることができます。（33-820型は8号～3.5号、33-840型は10号～3.5号）

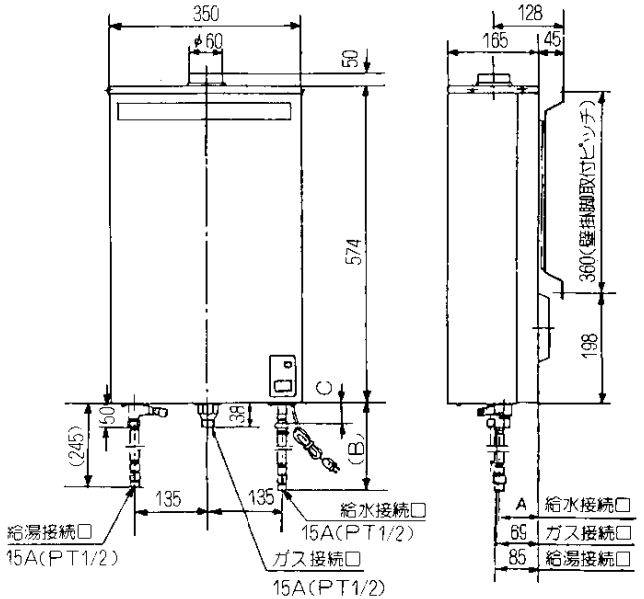
2 種火のないダイレクト着火方式でムダなガスは使いません。

3 運転スイッチを押すだけで、あとは給湯せんの、開・閉だけで点火・消火ができます。

4 従来品にないコンパクトさで設置スペースが少なくてすみます。

寸法図

〔単位：mm〕



注：(　)内寸法は付属のフレキシブル管(S)を接続したときの寸法。
A、B、C寸法は器種により下表に異なります。

	A	(B)	C
33-820	50	260	65
33-840	75	243	48

仕様一覧表(33-840)

品名		ガス湯沸器(瞬間先止め式)
品番		33-840
種類	給湯方式	先止め式
	給排気方式	強制排気式
点火方式		連続スパーク点火、ダイレクト着火
最低作動水量		2.9ℓ/min(作動水圧0.3kg/cm²)
排気温度		260℃以下
外形寸法		高さ574mm×幅350mm×奥行165mm
重量(本体)		15kg
接続	給水	15A(PT1/2)
	給湯	15A(PT1/2)
	ガス	15A(PT1/2)
	使用電源	AC100V(60Hz)
	排気筒	φ60(最大延長時5m3曲)
消費電力		56W(60Hz)
安全装置		立消え安全装置・過熱防止装置・残火安全装置 過圧逃し弁・過昇温防止装置
付属部品		メーンコントローラ、給水・給湯フレキシブル管、壁掛脚

使用ガスグループ		1時間当りのガス消費料 kcaℓ/h		出湯能力 ℓ/min (ガス消費量最大時) 上昇温度		ガス接続
		最大	最小	25℃	40℃	
都市ガス	6 A	19,500	9,500	10.1	6.3	15A(PT1/2)
	6 C	19,500	7,000	10.1	6.3	
	13 A	19,500	7,000	10.1	6.3	
LPガス		1.50kg/h	0.67kg/h	9.6	6.0	

備考 ●出湯能力は給水圧力1kg/cm²のとき。
●ガスはJISに規定する標準圧力のとき。
●出湯能力は、湯水混合水せんで混合した数値です。

仕様一覧表②(33-820)

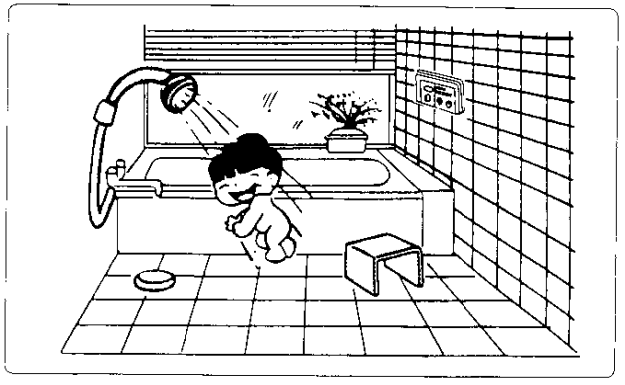
品名		ガス湯沸器〈瞬間先止め式〉
品番		33-820
種類	給湯方式	先止め式
	給排気方式	強制排気式
点火方式		連続スパーク点火、ダイレクト着火
最低作動水量		2.9ℓ/min(作動水圧0.3kg/㎠)
排気温度		260℃以下
外形寸法		高さ574㎜×幅350㎜×奥行165㎜
重量(本体)		15kg
接続	給水	15A(PT1/2)
	給湯	15A(PT1/2)
	ガス	15A(PT1/2)
	使用電源	AC100V(60Hz)
	排気筒	φ60(最大延長時7m3曲)
消費電力		56W(60Hz)
安全装置		立消え安全装置・過熱防止装置・残火安全装置 過圧逃し弁・過昇温防止装置
付属部品		メーンコントローラ、給水・給湯フレキシブル管、壁掛脚

使用ガスグループ		1時間当りのガス消費料 kcaℓ/h		出湯能力 ℓ/min (ガス消費量最大時)		ガス接続
				上昇温度		
		最大	最小	25℃	40℃	
都市ガス	6A	15,500	9,500	8.0	5.0	15A(PT1/2)
	6C	15,500	7,000	8.0	5.0	
	13A	15,500	7,000	8.0	5.0	
LPガス		1.29kg/h	0.67kg/h	8.0	5.0	

備考 ●出湯能力は給水圧力1kg/㎠のとき。
●ガスはJISに規定する標準圧力のとき。
●出湯能力は、湯水混合水せんで混合した数値です。

メモ

本製品と快適なくらしのために



年中、快適にシャワー、上り湯が使用できます。
又、洗面化粧台、流し台へも給湯できます。

おねがい

ガスくさいときはお部屋の元せんを閉め、窓を全開にしてから（火気に注意して）大阪ガス支社・サービスステーションにご連絡ください。

本社ガスビルサービスセンター・支社所在地および電話番号

本社ガスビルサービスセンター	〒541	大阪市東区平野町5丁目1	☎大阪06（202）2221
南支社	〒557	大阪市西成区玉出東2丁目9番41号	☎大阪06（652）0001
北支社	〒532	大阪市淀川区十三本町3丁目6番35号	☎大阪06（301）1251
東支社	〒590	堺市住吉橋町2丁2番19号	☎堺0722(38) 1131
北堺支社	〒569	高槻市栄の里39番6号	☎高槻0726(71) 0361
阪神支社	〒662	西宮市和上町4番11号	☎西宮0798(26) 3101
泉南支社	〒578	東大阪市稲葉2丁目3番17号	☎河内0729(62) 1131
京阪支社	〒573	枚方市西田宮町16番17号	☎枚方0720(41) 1251
神戸支社	〒650	神戸市中央区旭通町5丁目13番10号	☎神戸078(576) 5231
京都支社	〒604	京都市中京区烏丸御池柳馬場町358	☎京都075(231) 8151
奈良支社	〒631	奈良市学園北2丁目4番1号	☎奈良0742(44) 1111
和歌山支社	〒640	和歌山市本町1丁目1	☎和歌山0734(31) 2481
姫路支社	〒670	姫路市神屋町4丁目8	☎姫路0792(85) 2221
播磨支社	〒675	加古川市加古川町寺家29－1	☎加古川0794(21) 1801
豊岡支社	〒668	豊岡市三坂町6丁目57番地	☎豊岡07962(3) 2221
滋南支社	〒525	草津市追分町字荒張680の1	☎草津0775(62) 5311
彦根支社	〒522	彦根市大東町12番11号	☎彦根0749(22) 3131
（長浜営業所	〒526	長浜市南呉服町3番4号	☎長浜07496(2) 7171）

その他当社サービスステーション、およびサービスショップ

大阪ガス株式会社

860400(ひ)